

岡山大学桃太郎FD・SD  
バーチャルフォーラム2022

－探究力の育成をめざして－

2022年度（令和4年度）

（報告書）

2022年9月28日（水）

# 目 次

・はじめに	1
・プログラム	2
・開会挨拶	3
・基調講演（長濱文与准教授）要旨	4
・基調講演（山口洋典教授）要旨	6
・パネルディスカッション	8
・アンケート集計結果	10
・アンケート集計結果の分析	14
・総括	19

## はじめに

岡山大学学習・教授支援（GTE）部門長 石田 衛

岡山大学では、建学の理念「高度な知の創成と的確な知の継承」を踏まえ、大学、並びに学部・研究科等の教育組織が掲げる学位授与方針、教育課程編成方針等に基づいた教育の質をさらに向上させるために、教職員が協働して行う組織的な取り組みの一環として、「桃太郎フォーラム」と題した意見交換や討論の会を毎年開催しています。

今年度の桃太郎フォーラムは、「探究力の育成をめざして」をテーマにしました。2025年度から、高校の新学習指導要領で学んだ若者たちが大学に入ってきます。学生たちが大学入学前までに取り組んできた「主体的・対話的で深い学び」を踏まえ、学生たちが自ら問うて探究・創造し続ける大学教育の発展をめざして、学生の「探究力育成」に関する組織的、あるいは先進的な取り組みについて知り、ディスカッションから学ぶことを目的としました。こちらの報告書に、その実施内容、並びに実施に関する分析・考察を示しました。また、それらを踏まえて、来年度以降の開催と実行に関する提案にも言及します。

## プログラム

日 付：2022年9月28日（水）

総合司会：伊野英男（岡山大学教育推進機構副機構長）

12:30	Z o o mの入室開始
13:00	開会挨拶
13:05	プログラムガイダンスと基調講演登壇者紹介
プログラム1	
13:15～13:55	基調講演（三重大学：長濱文与准教授） 「目標に応じた多様なPBLの全学展開と その導入としての初年次教育プログラム」
14:00～14:40	基調講演（立命館大学：山口洋典教授） 「探究力の育成に関する取組 ～サービスラーニングと市民性の育成」
14:40～15:00	休憩
プログラム2	
15:00～15:50	パネルディスカッション「探求力の育成」 【登壇者】長濱文与 准教授（三重大学） 山口洋典 教授（立命館大学） 原祐一 准教授（岡山大学） 百田龍輔 助教（岡山大学） 石田衛 教授（岡山大学）
15:50～16:10	質疑応答
16:10～16:20	閉会挨拶

## 開会挨拶

舟橋 弘晃（岡山大学教育推進機構機構長）

岡山大学教育推進機構長の舟橋です。開会に際し、一言ご挨拶申し上げます。

本日は、岡山大学桃太郎FD・SDバーチャルフォーラム2022にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。また、フォーラムの開催にあたり、学内外の皆様にご多大なご協力を賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。

今年度のテーマは、「探究力の育成をめざして」です。

岡山大学は現在、「SDGs（持続可能な開発目標）」を大学活動の中核に据え、サステナビリティとウェルビーイングを追求する研究大学として、大学の知の資源を活用しながら、社会から信頼を得る営みを推進しております。

皆様もよくご承知の通り、世界情勢の混迷や混沌、そして地球環境の変動性並びに複雑性はますますもって深まりつつあります。私たちがこれから経験する出口の見えない不確実・不確定な社会において、大学を含む全ての教育機関に求められている最も重要な役割は、間違いなく未来の可能性を切り拓き、共に押し上げる次世代人材の持続的な育成であると私は考えています。

本学では現在、多彩な能力・意識を備えた多様な学習者が、自ら問うて探究・創造し続けるとともに、地域や世界の方々と探究をより深め、新たな価値の共創につなげることを通じて、「主体的に変容し続ける先駆者」を育成することに取り組んでいます。

また2025年度からは、「主体的・対話的で深い学び」を通して「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力など」や「学びに向かう力、人間性など」、3つの柱からなる「資質・能力」の養成を目指す新学習指導要領で学んだ学生の皆さんが大学に入学してこられます。

このたびのフォーラムをはじめとする様々な取り組みは、「主体的に変容し続ける先駆者」の育成に取り組む私たち教職員が、「主体的に変容し続ける教育者」であるために不可欠なものであり、その意味でも、本日の会には将来にも向けた大きな意味があると私は感じています。

本日は、学生の探究力育成をめざす大学教育に関して、先駆的な取り組みをされている方々にご登壇いただき、学生の探究力育成や、そのための教育の再設計等に関して多角的な視点でのお話を伺うことになっています。私たちの日々の教育研究活動を改めて見つめ直す大変良い機会になるものと期待しております。

最後に、この場にお集まりの皆様、また開催にご協力いただいた皆様に改めて感謝の意を表すとともに、本フォーラムが皆様にとって実り多きものとなることを祈念して、開会の挨拶とさせていただきます。

それでは宜しく願い申し上げます。

## 基調講演 1

目標に応じた多様な PBL の全学展開と  
その導入としての初年次教育プログラム

---

長濱 文与

三重大学高等教育デザイン・推進機構准教授

## 基調講演（長濱文与准教授）の要旨

岡山大学教育推進機構学習・教授支援（CTE）部門長  
石田 衛

長濱文与准教授は、PBL（Problem/ Project-based Learning, 問題解決型学習）と、その導入としての初年次教育プログラムに、長く携わってこられた方です。長濱先生の説明によると、三重大学は 2005 年から教育改革に取り組み、その中核に PBL を据えながら徐々に、組織と体制を整えました。大学の教育目標を「4つの力」（感じる力、考える力、コミュニケーション力、生きる力）としたうえで、教員たちが PBL に取り組めるよう、ガイドラインの設定やセミナー、研修、交流会の開催、奨励金の支給、授業参観などを進め、いまでは全学で 500 科目以上の PBL 教育が実施されるまでになっています。これは、およそ 1 教員が 1 科目を開講している計算になるそうです。

また、三重大学の新生（1年生）の前期で必修とした「スタートアップ PBL セミナー」（初年次教育）にも、学ぶところが大いにありました。1年生は 16 回の授業で PBL の導入として、各自でテーマを絞り、問いを設定するところまで導かれます。16 回の内容、学生のグループ活動、学びを促進するための工夫、評価方法なども聞くことができました。

## 基調講演 2

# 探究力の育成に関する取組 ～サービスラーニングと市民性の育成

---

山口 洋典

立命館大学共通教育推進機構教授



## 基調講演（山口洋典教授）の要旨

岡山大学教育推進機構学習・教授支援（CTE）部門長  
石田 衛

山口洋典教授は、阪神大震災とその復興を経験されたこともあって、サービスマーケティングによる市民性の育成に長く取り組んでこられました。先生の説明によると、立命館大学では「サービスマーケティングセンター」が中心となって、学生たちに様々なボランティア活動の機会を提供しています。下校時の子どもたちの見守り、寺院のそうじ、時代まつりへの参加、野菜の栽培、絶滅危惧種の植物の育成など、いずれも「地域参加」「地域活性化」に関連した活動です。

感覚的な学びを思考力の育成に結びつけるためにも、学生には活動後にジャーナル（日誌）を書くように指導しており、「経験の記述」「経験の分析」「自己省察」のような項目ごとにルーブリック評価を行うプログラムになっていました。まさに学生の探究力を育てながら、学生と地域社会を結び、現代的な市民性を培う教育ではないでしょうか。山口先生は「先に続く人生に学びを重ねることで、他者に対する思いやりの心が育つ」とも話しておられました。

パネルディスカッション

『探究力の育成』

---

長濱 文与 准教授 (三重大学)

山口 洋典 教授 (立命館大学)

原 祐一 准教授 (岡山大学)

百田 龍輔 助教 (岡山大学)

石田 衛 教授 (岡山大学)

## パネルディスカッションの要旨

岡山大学教育推進機構学習・教授支援（CTE）部門長  
石田 衛

岡山大学でPBLに携わっている原祐一准教授と百田龍輔助教も交え、PBLを実践するにあたっての課題について論議を深めることができました。参加者も交えた討論も行い、今後、本学の強みを生かした「探究力の育成」をめざす教育を共に考えました。

特に、「探究力」とは学生が何をできるようになることと各部局で捉えるのかについて論議し、教員間で共通認識を持つことが必要であろうといった意見がありました。基調講演者の方々とは、全学的な方向性の共有や意思統一に向けてどのようなことが展開されたかについて議論を深めました。また、原祐一准教授と百田龍輔助教からは、具体的な実施の様子に関して質問があり、三重大学では、「スタートアップPBLセミナー」の詳しい内容に加えて、事前にワークシートなどを準備して実施していることなども紹介いただきました。また、立命館大学のサービスラーニングでは、人として持っている他者への思いやりの心を育てることを大切にしていることを伺え、サービスラーニングの行動が、学生のマインドに変化をもたらすことを、どのようにファシリテートすべきか、また、評価すべきかなど、実践における考え方についてディスカッションを行いました。

## 桃太郎FD・SDバーチャルフォーラム2022（第25回桃太郎フォーラム）

### アンケート集計結果

#### 1. 開催概要

令和4年9月28日（水）13:00～16:20  
Zoomによるオンライン開催

#### 2. 参加者数

- 総数：78名
  - ・参加者：69名  
（教員：58名 事務職員：7名 学生：4名）
  - ・登壇者および運営者：9名  
（学内教員：5名 学外教員：2名 事務職員：2名）

#### 3. アンケート回答数

28（回答率40.6%）  
※アンケートはMicrosoft Formsを使用して実施。

#### 4. アンケート回答内容集計

##### 1 年齢

	10代	20代	30代	40代	50代	60代
人数	1	2	1	7	12	5
比率	3.6%	7.1%	3.6%	25%	42.9%	20%

##### 2 桃太郎フォーラムへの参加回数

	初めて	2回目	3～5回	6～9回	10回以上
人数	8	0	14	4	2
比率	28.6%	0%	50%	14.3%	7.5%

##### 3 参加のきっかけ・理由

- ・興味があったから
- ・毎年参加しており大変参考になるから
- ・申し込み期限が延長されたから
- ・大学教育に興味があるから
- ・石田衛教授からイベントを紹介されたから
- ・自己FDのため
- ・情報収集のため
- ・PBL等の授業展開に関心があったから
- ・内容に関心があったから
- ・PBLを対象とした内容だったから
- ・興味のあるテーマ（探究力の育成、PBL）だったから
- ・毎回、有益なフォーラムが企画されており、楽しみに参加しているから
- ・FDの内容に興味があったから
- ・PBLをどのように実施しているかに興味があったから

- ・ テーマに強い関心を持っているから
- ・ 講演およびパネルディスカッションのトピックに関心があったから
- ・ 大学での学びを自身の生活や社会に反映させることに関心があったから
- ・ FD委員だから
- ・ The PBL topic is similar to what I teach in one of my courses in general education and 医学部ゼミ (原文ママ)
- ・ 教育推進委員会FD推進WGで案内があったから
- ・ 毎回、桃太郎フォーラムでは、基本的部分についての考え方（それが多様な場合もある）を学べるから
- ・ 高校教育との接続を踏まえた本学での「探究」学習の方向性を知りたかったから
- ・ 探究力をどのように育成しているか興味を持ったため
- ・ 自己研鑽のため
- ・ 教育についての新しい考え方を知ることができ、毎回、有益だから
- ・ 「探究力」というキーワードに関心があったため

#### 4 今回参加したプログラム

	基調講演① (長濱文与准教授)	基調講演② (山口洋典教授)	パネルディスカッション
人数	26	27	28
比率	92.9%	96.4%	100%

#### 5 基調講演① (長濱文与准教授) (有意義だった5 ←→ 1 有意義ではなかった)

	5	4	3	2	1
人数	13	11	4	0	0
比率	46.4%	39.3%	14.3%	0%	0%

#### 6 基調講演② (山口洋典教授) (有意義だった5 ←→ 1 有意義ではなかった)

	5	4	3	2	1
人数	14	11	3	0	0
比率	50%	39.3%	10.7%	0%	0%

#### 7 パネルディスカッション (有意義だった5 ←→ 1 有意義ではなかった)

	5	4	3	2	1
人数	12	14	2	0	0
比率	42.9%	50%	7.1%	0%	0%

8 来年度の桃太郎フォーラムへの参加に関して（参加希望 5 ←→ 1 不参加希望）

	5	4	3	2	1
人数	13	10	5	0	0
比率	46.4%	35.7%	17.9%	0%	0%

9 「8」の理由

- ・有意義であったため
- ・毎年参加しているから
- ・自分の職務の改善に繋がるから
- ・情報収集のため
- ・プログラム内容が勉強になるから
- ・他分野の話が聞けて新たな知見が得られる上、大学の方針に対する理解が深まる貴重な機会だと感じているから
- ・非常に勉強になったから
- ・本学の教育改革に対応するタイムリーな話題について理解を深めることができるから
- ・他大学の取り組みを聞くことで、岡大の特徴や課題、立ち位置などが解るため
- ・大変貴重な話を聞くことができたため
- ・I learn a lot about how to improve my teaching skills and student interaction (原文ママ)
- ・教育改革の必要性を感じるから
- ・オンラインだから（対面で小グループディスカッションがあると少し緊張するため）
- ・第4期中期計画に基づく本学の教育改革の方向性を知りたいから
- ・興味深かったから
- ・聞きたいところ（悩みどころ）を聞くことができるから
- ・普段考え無いような大きなテーマに関して専門家を交えてお話できるから
- ・教育について新しい考え方や方法を学ぶことができるから
- ・テーマに関心があれば参加を希望するから

10 来年度以降の桃太郎フォーラム、その他FD・SD研修で希望するテーマ、  
招聘を希望する講師

- ・メタバースやXRを活用した事例に関して
- ・オンライン教育とオフライン教育のバランスについて
- ・「考える力」「発信力」「深い学び」などのテーマ
- ・「教養と専門の連携」「全学の取り組み」などのテーマ
- ・共育共創科目・PBL科目などの全学必修科目の意義を大学（高等教育）における主体的な学びとどのようにすり合わせるのか
- ・特別の対応を要する学生への教育について
- ・カリキュラムマップなどを用いた到達度評価法について
- ・アフターコロナを見据えて、対面授業とオンライン授業をどのようにバランスよく活用していくべきかに関して（ハイブリッド授業の実践例の紹介を希望）
- ・教育課程編成に関するテーマ
- ・教職協働に関するテーマ

11 フォーラムの感想（以下、原文ママ）

- ・学生が質問をしやすい雰囲気のパネルディスカッションでとても良いなと感じました。来年はぜひ対面で開催してほしいです。
- ・貴重なお話を聞くことができ、とても学びになりました。
- ・有意義でした。

- ・それぞれの大学でのご苦労と真摯な取り組みが分かり、共感できました。
- ・山口先生のお話しを通じて、サービスラーニングがどういうものか理解できました。また、探求力を育成するためのキーワードとして、興味、知識と情報の獲得、協働、経験の蓄積などといったことが挙げられるかな、と思いながら自分の教育活動を振り返ることができました。貴重な機会をありがとうございました。
- ・PBL、サービスラーニングといった、経験型の学びについて、理論と実践の両面から勉強することができました。お示しくださった資料などを取り寄せて、もっとふかめることができればと思います。企画運営をしていただきました先生方、スタッフの皆様、本当に有難うございました。
- ・実践が主になりがちなPBLについて、山口先生から様々な論考等を紹介しながら説明していただき、理解が深まりました。また、長濱先生がご紹介くださった組織的な取組は本学の場合はどうなるだろうかと思いながら拝聴していました。良い機会を作ってくださいありがとうございました。
- ・企画運営お疲れさまでした。学内外での広報が少なかつたようにも思いますので、もう少し積極的に広報されても良いのではないかと思います。
- ・大変有意義な機会を設けてくださり、ありがとうございました。学生としての私の立場から見て、先生方が授業でなさっている工夫の議論に参加させていただいたことは非常に新鮮でした。自らの受講姿勢に取り入れていこうと思います。
- ・探究力を養う授業は設計も評価もとても難しいと感じました。
- ・I'm in my 3rd. year of teaching a PBL course in general education with productive student reflections, so I could relate to a lot of things mentioned in the lectures.
- ・議論もよく進み有意義なフォーラムだった。
- ・今回のフォーラムで得られた知見が、今後どのようにカリキュラムの改善につながるかに注目・期待しています。
- ・私もこのような講義を持っていますが、こちらが予想した通りに行かないのは当然だと思います。そのようなときに、目指した方向に教員としてどのように助言できるかだと思います。これまであまり自ら問題を問うたりしてこなかったせいか、問題を適切に設定できない学生が多いように思います。さらにネットのみで調べるせいか、解決策に穴がある場合が目立つようになってきています。
- ・専門科目の本試験前に学生からの質問でよく聞くのは「どこが出ますか」「それで、答えはなんですか」という言葉です。1年生で問題を解決するためにどのように調べるか、どう考えて行くかなど「チュートリアル」で学ぶのですが、まったく生きていないなと思う瞬間です。大学の勉強は、問題に対して自分で深く考え教員とディスカッションするところに意義があるかと思います。学生は単位を取得することが大きな目的であるので（私らもそのような一面はあった）、6回くらいの講義でそれを習得するのは困難なのかもしれないのかなとも思います。長濱先生がおっしゃっていたように教養科目と専門科目のギャップのようなものを感じていますが、そこをなんとか埋めたいと思っています。また参加させてください。ありがとうございました！
- ・三重大学の全学的な取り組みには驚きました。15年ぐらいかけてじっくりと取り組まれた成果は大きいと思います。リーダーのお一人である長濱先生の労力は大変なものだろうと思いますが、いろんなノウハウを開示してくださって、参考になりました。山口先生のプレゼンは、名言の数々。サービスラーニングの取り組みを教えていただいて、学びとは「人間の成長である」という原点に立ち返ることができたように思います。有意義なフォーラムでした。

以上

## アンケート集計結果の分析

### I. 実施に関する分析・考察

#### (ア) 参加動機

参加動機やきっかけに関する設問では主に3つのテーマがありました。

##### ① 探究力の育成というテーマに対する関心

探究力の育成というテーマに関心があったからという回答が最も多かったです。「探究力というキーワードに関心があったため」、「内容に関心があったから」など同様の声が多くありました。中でも、「PBLをどのように実施しているかに興味があったから」や、「PBL等の授業展開に関心があったから」といった、部局や教員によるPBLの実践に関して知りたくて参加したという方が多かったです。

また、「大学での学びを自身の生活や社会に反映させることに関心があった」といった探究やPBLからの学びとその社会実装についての言及、「高校教育との接続を踏まえた本学での探究学習の方向性を知りたかった」といった本学の教育がめざす方向性についても関心事でありました。

探究力の育成は、大学教育の使命の一つとも言え、他大学の事例や他でPBLがどのように実践されているのを知ること、並びに、このテーマで他者とディスカッションすることに強く意義を感じているようでした。今回のフォーラムでは、他大学の事例を知るために多く時間を割き、そのうえでパネルディスカッションや参加者を交えての質疑応答なども同等の時間を使うことができ、参加者の満足度も高かったようでした。探究力の育成やPBLといった取り組みに関して、よりはっきりとしたイメージを参加者が捉えることができたように考察します。また、それらを通じた学びを、学生自身の生活や社会に反映させることに関しても思いを巡らし、今後継続して考えていくためのヒントも多数提供されました。探究力の育成はTarget2025をはじめとした教育改革でも重要視されており、引き続き探究力の育成に関する教育目標やするカリキュラム等について、本学として方向性を考えていく参考にもなったように見受けられます。

##### ② 自己研鑽

次に多かったのが、自己研鑽のためといった回答が多くありました。「自己FDのため」、「情報収集のため」といった、大学教育に関わる立場として、教育実践について自身の理解を広げたいという主体性の濃い動機が強く感じられました。「教育についての新しい考え方を知ることができ、毎回、有益だから」、「毎回、有益なフォーラムが企画されており、楽しみに参加しているから」、「毎回、桃太郎フォーラムでは、基本的部分についての考え方（それが多様な場合もある）を学べるから」、「毎年参加しており大変参考になるから」など、この機会を学びの場と捉えている積極的な声も多く確認できました。

参加者の主体性や積極性が感じられるコメントが多数集まりました。日本の高等教育において、一般的にFDのイメージを上意下達の枠内に押し込め、教員の忌避感を生み、FDの推進を妨げる原因になってきたとも言えます（羽田 2009）が、本フォーラムにおいては、参加者の主体性や積極性が強く伝わってきました。桃太郎フォーラムの特色の一つは、分野の垣根を越えて、教職員・学生が集まって、学び、話し合う機会である、ということでしょう。コロナ禍でオンライン開催となり、オンラインツールを活用してそのような機会を工夫して実施してまいりました。今後の桃太郎フォーラムでは、そのような機



会をより一層多く展開するべきでしょう。本学のFDのあり方の一つとして、相互に話し合う習慣作りをめざしたいところであり、桃太郎フォーラムでの、相互に話し合う経験も大切になろうかと考えます。

### ③ 他の教員からのすすめ

参加動機やきっかけに関して、他の教員から紹介された、という回答がありました。また、所属している委員会で開催サイドの教員からの周知を直接受けたことがきっかけで参加された者もいました。こうした教職員間での積極的な声かけが参加に繋がったケースもあることがわかりました。

今後の桃太郎フォーラムでは、準備段階で、そのような声かけをどのように行うかを計画し、そのための工夫も考えることが望ましいでしょう。日頃FDに関して話題にする参加者もいるようで、そういった習慣が広まることを期待します。

### (イ) 参加者の満足度

参加者の満足度に関する設問の回答結果は以下の通りでした。

#### 基調講演①

「非常に有意義だった」が46.4%、「有意義だった」が39.3%、合わせて85.7%の回答者が有意義であったと感じました。「有意義でなかった」、「全く有意義でなかった」の回答は0でした。基調講演①は、回答者の8割以上にとって好評であったと言えるでしょう。

#### 基調講演②

「非常に有意義だった」が50%、「有意義だった」が39.3%、合わせて89.3%の回答者が有意義であったと感じました。「有意義でなかった」、「全く有意義でなかった」の回答は0でした。基調講演②は、上記同様、8割以上の回答者にとって好評であったと言えるでしょう。

#### パネルディスカッション

「非常に有意義だった」が42.9%、「有意義だった」が50%、合わせて92.9%の回答者が有意義であったと感じました。「有意義でなかった」、「全く有意義でなかった」の回答は0でした。パネルディスカッションは、9割以上の回答者にとって好評であったと言えるでしょう。パネルディスカッションでは、複数の演者による対話形式として、用意された原稿を読むことに終始することなく、演者の考えや言葉がより伝わりやすかったと考察します。パネルディスカッション中、参加者からの意見や質問を求めたり、講演中 Google Form で届いた参加者からの問いに答えたりしたことも好評であった理由と見受けられます。今後も、基調講演に加えて、講演者を交えたパネルディスカッションを準備することで、参加者のエンゲージメントが深まると考えます。

基調講演①、基調講演②、パネルディスカッションの参加者数も別々に算出しましたが、ほとんど変化なく、ほぼ変動なく参加が続きました。また、回答者の8割以上が、来年度の桃太郎フォーラムへの参加の希望を示し、今回の満足度の高さを物語っています。

## (ウ) 参加者が得た学び

自由記述のコメントから、参加者が得た学びの内容を考察しました。主に3つのテーマがありました。

### ① 探究力の育成に関する教育実践

三重大大学の全学的なPBLの取組や、立命館大学のサービラーニングの取組を知れたこと、また、「それぞれの大学でのご苦勞と真摯な取り組みが分かり、共感できました」といったコメントに集約されるように、具体的な取り組み事例と試行錯誤のエピソードを伺えました。そういったエピソードから、学びが人間の成長であることを改めて認識された参加者もいました。「山口先生のお話を通じて、サービラーニングがどういうものか理解できました。また、探求力を育成するためのキーワードとして、興味、知識と情報の獲得、協働、経験の蓄積などといったことが挙げられると思います」のように、探究力の育成に関して理解が深まったといった声が集まりました。

特に、探究力の育成に関する理論と実践の両局面からのアプローチが有益であったというコメントがありました。「PBL、サービラーニングといった、経験型の学びについて、理論と実践の両面から勉強することができました。お示しくださった資料などを取り寄せて、もっとふかめることができればと思います」また、「実践が主になりがちなPBLについて、山口先生から様々な論考等を紹介しながら説明していただき、理解が深まりました」といった意見もありました。

探究力の育成に関する教育実践の理解が深まったと同時に、各教員において課題と感ずる事項の認識も行われました。例えば、既にPBL型の科目担当の教員からは、「学生はネットのみで調べるせいか、解決策に穴がある場合が目立つようになってきています」といった言及がありました。探究には、情報を収集したり理解したりするだけでなく、分析や応用をはじめとしたより高次の論理的思考力が必要となります。したがって、そういった高次の論理的思考力の涵養を行う学習の提供が重要となります。さらに、「これまであまり自ら問題を問うたりしてこなかったせいか、問題を適切に設定できない学生が多いように思います」といった指摘があり、そういった学生にどのように助言できるかも課題であるという意見がありました。

また、「大学の勉強は、問題に対して自分で深く考え教員とディスカッションするところに意義があるかと思っています。6回くらいの講義でそれを習得するのは困難なのかもしれないのかなとも思います」といった懸念もありました。学生が深く考える様々なプロセス、並びに学生間や教員とのディスカッションを通して学ぶには、時間がかかります。必要となる時間を確保することも課題となります。

さらに、「教養科目と専門科目のギャップのようなものを感じていますが、そこをなんとか埋めたいと思っています」といった声もありました。初年次にPBLセミナーといった科目履修をして、培った探究のためのスキルを専門科目でも活用していく機会を提供することで、よりシームレスな探究力の育成が行えると考えます。

### ② 本学の教育改革やその方針

参加者が得た学びとして、本学の教育改革やその方針について理解が深まったという意見も多数ありました。「他分野の話が聞けて新たな知見が得られる上、大学の方針に対する理解が深まる貴重な機会だ」、「他大学の取り組みを聞くことで、岡大の特

徴や課題、立ち位置などが解る」、といったコメントがありました。「本学の教育改革に対応するタイムリーな話題について理解を深めることができる」、「第4期中期計画に基づく本学の教育改革の方向性を知りたい」という理由から来年度も参加したいといった声もありました。

### ③ 自己研鑽

参加者が得た学びとして、自己研鑽に関わるコメントが見受けられました。「自分の教育活動を振り返ることができました」「自分の職務の改善に繋がった」「I learned a lot about a lot about how to improve my teaching and student interaction. 」といったコメントがありました。また参加した学生からは「大変有意義な機会を設けてくださり、ありがとうございました。学生としての私の立場から見て、先生方が授業でなさっている工夫の議論に参加させていただいたことは非常に新鮮でした。自らの受講姿勢に取り入れていこうと思います」といった声もあり、学生の自己研鑽の場にもなったようです。

## II. 来年度以降の開催・実行に関する提案

### (ア) テーマについて

#### ●各々の教授および学習活動に関して

#### オンライン教育とオフライン教育の併用（ハイブリッド授業）

「オンライン教育とオフライン教育のバランスについて」見地を深め、共通認識を行うようなフォーラムの提案がありました。「アフターコロナを見据えて、対面授業とオンライン授業をどのようにバランスよく活用していくべきかに関して（ハイブリッド授業の実践例の紹介を希望）」という意見もありました。国内外で広くハイブリッド型の教授および学習は活用され、反転授業などを促進するのにも有効で、学びの質を高めつつ、教員の仕事の軽減にもつながるので良いテーマでしょう。今後は、ハイブリッド型に関する大学の方針を確認・検討することも必要と考えます。

#### 特別の対応を要する学生への教育

様々な学生への対応が必要となり、多様な教授法を通して、多彩な学習活動を展開することに関して、見地を深め、共通認識を行うようなフォーラムの提案がありました。教員各自、学生のニーズにインクルーシブに対応した教育戦略・手法を活用することが求められており、学生の評価方法にも及ぶディスカッションとなるでしょう。

#### ●全学、並びに部局としての教育 の教育カリキュラムに関して

#### 養成人材像やDP 関連

「考える力」「発信力」「深い学び」などのテーマを取り扱ってほしいという意見がありました。全学、並びに部局としての養成すべき学生の能力やDP で使われている教育に関する事項に関して、見地を深め、共通認識を行うようなフォーラムの提案がありました。

### 教育課程編成・実施関連

教育課程編成に関するテーマを取りあつかってほしいという意見がありました。具体的には、「教養と専門の連携」についてや、「共育共創科目・PBL科目などの全学必修科目の意義を大学（高等教育）における主体的な学びとどのようにすり合わせるのか」といった学生の学びについて共通認識を行うといった内容が見受けられました。また、「メタバースやXRを活用した事例に関して」や、「教職協働に関して」など、ICTの活用や、教育課程実施における教職協働などにも関心が高まっているようでした。

#### (イ)開催・実行の方法について

参加者数は例年並みで、参加者から「学内外での広報が少なかったようにも思えた」といった意見もあり、広報の計画を見直し改善することが要されます。また、参加者からオンライン開催なのでリラックスして参加できたという意見があった一方で、「来年は是非対面で開催してほしい」といった声もあり、今回はコロナ感染拡大がより安定化した中で対面開催を実施したいと願っております。そのメリットとして以下の通りです。

第一に、より活発な意見交換、共通認識の場となることが考えられます。対面でのディスカッションの方が、話者は相手の非言語表現も見ながらコミュニケーションを取ることができるので、相互より理解度の高いディスカッションが可能になります。小グループでのディスカッションも次回の開催では積極的に取り入れたいと考えており、外国人教員や留学生のディスカッション参加にも非言語表現が可能なことは有益です。また、参加している教職員は、デジタルネイティブが圧倒的に少ないので、オンラインでの質問に慣れていなかったり、消極的になったりする場合も考えられ、対面であると質問する機会も増えると予測されます。今回は参加者がZoomのミュートを切って質問することに消極的になることを見越して、Google Formで質問を投稿する選択肢も加えたことで、一定量の質問は集まりました。しかし、対面開催の場合とは比にならないでしょう。

第二に、FDとして大切なコミュニティ形成の促進に繋がります。顔を合わせることで、助け合える仲間を見つけやすく、今後の自己研鑽や授業改善などで協力するきっかけにもなると考えます。教育改革を推進する上で、相互理解や協力・連携は不可欠であり、そのために必要な交流の場として、全学開催のフォーラムを活かす必要があります。デジタルネイティブが圧倒的に少ない教職員間では、オンラインでの交流には限界があるようです。

## 総括

岡山大学教育推進機構学習・教授支援（GTE）部門長  
石田 衛

今年度の桃太郎フォーラムは、「探究力の育成をめざして」をテーマに掲げ、先進的な取り組みについて知り、本学で取り組んでいる教員も交えたディスカッションを行いました。“探究力”の育成は、知識基盤型社会・予測困難な時代において学び続ける能力の育成と言え、自身の経験や学びを「省察」する活動から学びを深める重要性とそのための工夫を共有できました。

本フォーラムの各内容は「有意義だった」と多数の参加者から評価を受け、“探究力”の育成に関する教育実践について学びが多かっただけでなく、本学の教育改革やその方針について理解を深めることができたという感想も目立ちました。また、教育の職務を考える機会となり、自己研鑽に繋がったと反響も集まりました。

今回の講演・議論を踏まえて、具体的にどのような Target2025 カリキュラムが構築されるのか期待する声もあり、「探究力の育成」の実践がより洗練できること、また、今回の講演・議論が大いにみなさまの参考になりますことを願ってやみません。